

エイジング・イン・プレイス(高齢者の地域居住)
に資する生活支援に関する調査研究

2021年 10月

国土交通省 国土交通政策研究所

Policy Research Institute for Land,
Infrastructure, Transport and Tourism
Ministry of Land, Infrastructure,
Transport and Tourism

第2節 高齢者を支える持続的取組の事例

まち・地域において持続的に高齢者を支える取組が展開されるために取組の事業ポートフォリオを設計し、無償ボランティアや行政からの補助金のみには依存しないモデルと考えられる事例について、ヒアリング（オンライン会議または電話）等により取組の詳細を聞き取った。収集した事例は下記のとおり。

表 6-11 持続的取組の事例

No.	事例名	組織形態	取組分野	取組概要
1	ソーネ OZONE	NPO 法人	多世代交流、生活支援	<ul style="list-style-type: none"> 住民の高齢化と空き住戸の増加が進む名古屋市の大曾根住宅（4棟、全480戸の公営団地）で2017年に団地の一部がサ高住として改装。さらに2018年にコミュニティ再生の拠点として子どもからお年寄りの住まいと交流、生きがい生まれる場を設けようと複合型施設「ソーネ OZONE」が開設。 身元保証、生活支援、財産管理、死後事務等に対応するソーネそだんのほか、資源買取センター（ソーネしげん）、ソーネカフェ等の運営のほか子ども食堂等居場所づくりにも取り組んでいる。
2	洛西福祉ネットワーク	NPO 法人	生活支援、生きがいづくり	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化や若年世代の減少に伴うまちの活力の低下やコミュニティの崩壊等様々な問題を抱える洛西ニュータウンで住民のコミュニティ活動の拠点整備や、高齢者や障害者の生活を支える生きがいづくり・居場所づくりを開始。 主な取組内容は7つ。①居場所づくり事業（高齢者等の居場所となるカフェ運営、買物取次サービスや移動販売、マルシェ等）、②生きがいづくり事業（短歌・俳句、英会話、ピアノ等の同好会）、③家事援助事業（庭木の剪定、掃除等の有償支援）、④困りごと生活相談事業（高齢者等の日常生活全般に関する相談）、⑤セミナー・講演事業（健康・生活等に役立つセミナー・講演会）、⑥交流会（地域密着型交流・相談の場）、⑦介護事業（介護保険に基づく第1号訪問事業）を実施。
3	フキデチョウ文庫	一般社団法人	居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源としての社会福祉施設の運営を目指し、世代を問わず愛好者がおり地域とつながるコンテンツとして最適な本を軸とした福祉施設の開所を構想し岩手大学等と連携し開設。高齢者の通所介護と障害

2 住民による草の根の居場所づくりの取組と

空き店舗活用による地域再活性化



写真 左：買物支援の様子、右：マルシェの様子（写真 洛西福祉ネットワーク提供）

【洛西福祉ネットワーク】

（1）地域概要

洛西福祉ネットワークが活動する洛西ニュータウンは、京都市西京区の丘陵地に開発された住宅団地である。住宅難の解消、乱開発の防止、秩序ある住宅地の供給を目的に、京都で初めて大規模計画住宅団地として開発された 260 ヘクタールの広大なまちであり、豊かな緑の中で勾配屋根の低層住宅や中高層住宅等がゆとりを持って建ち並び、その中に約 3 万人の住民が生活している¹。京都市中心部へは直通するバスで約 1 時間、最寄り駅である阪急桂駅まで 25 分のところにある。

ニュータウンの住宅は分譲・賃貸、集合・戸建てといった多様なものが混在している。また、ニュータウン中心部にはセンター機能が設けられており、区役所支所や図書館などの公共施設のほか、大型商業施設やホテルなどが立地している。

なお、地域内の住民の高齢化率は 43.5%²である。

（2）取組に至った経緯・課題

洛西ニュータウンでは、高齢者の急激な増加、少子化による若年世代の減少に伴うまちの活力の低下やコミュニティの崩壊など様々な問題が顕在していた。そのため、住民のコミュニティ活動の拠点整備や、高齢者や障害者の生活を支える生きがいづくり・居場所づくりを進めることとなり、活動が始められた。

立ち上げの際には、以前から地域の課題に取り組んでいた住民有志と、活動に協力していたニュータウン近隣の大学教員などが中心メンバーとなった。

¹ 京都市西京区ホームページ：2021 年 9 月 27 日最終閲覧

<https://www.city.kyoto.lg.jp/nisikyo/page/0000152248.html>

² 2021 年 7 月 1 日現在の住民基本台帳人口。京都市ホームページを 2021 年 9 月 27 日最終閲覧

<https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/Juki/>

(3) 取組内容

団地内にあった空き店舗を有料で借用し、事務所兼わくわくサロンをカフェとして利用している。ここを会場にした「居場所づくり事業」と「生きがづくり事業」が当初から行われている事業である。そのほか、「家事援助事業」、「困りごと生活相談事業」、「セミナー・講演事業」、「交流会」が行われている。更には、介護予防生活支援サービス事業の第1号訪問事業として、高齢者の訪問も行っている。

具体的な事業内容は次のとおりである。

- ・居場所づくり事業：高齢者等の居場所となるカフェを運営。買物取り次ぎサービス、移動販売の地域拠点探し支援や年1回のマルシェ開催等を実施。
- ・生きがづくり事業：短歌・俳句、英会話、ピアノ等の同好会を開催。
- ・家事援助事業：庭木の剪定、掃除等を有償で行う家事援助サービスを提供。
- ・困りごと生活相談事業：高齢者等の日常生活全般に関する会を開催。
- ・交流会：地域密着型の交流・相談の場の提供。
- ・介護事業：介護保険（介護予防生活支援サービス事業）の第1号訪問事業

このほか、買物支援として近隣地域で生産された野菜の朝市を行っており、好評を博している。

(4) 資金の確保方法

収入の約6割が事業収益、残りのほとんどが会費や寄付金、助成金となっている。京都市（西京区）からの補助金も活用している。カフェの飲食費やサロンを団体利用に貸し出した際の利用料も収入の一部であるが、事業単位での収支はマイナスとなっており、それを寄付金等で補う形である。

(5) コロナの影響と新たな取組

新型コロナの流行拡大に伴い、「居場所づくり事業」や「生きがづくり事業」を停止しており、収益がない状態である。一方、コロナ禍の中での新たな取組として2021年1月から3月まで、洛西ケーブルビジョンの放送網を活用し、介護保険や相談に関する情報発信、地域の有名人の紹介、体操・歌などの放送を1日2回行った。

(6) 今後の課題

運営主体へのヒアリングによると、「生きがづくり事業」を除き基本的には収支がマイナスであり、会費・助成金・寄付金等で賄っている状態であるという。また、施設の賃借料が負担になっているということであり、拠点の移転なども含め検討しているが、結論が出ていない。また、行政からの補助金が期限付きであることから、今後どのようにするかも検討課題の一つである。

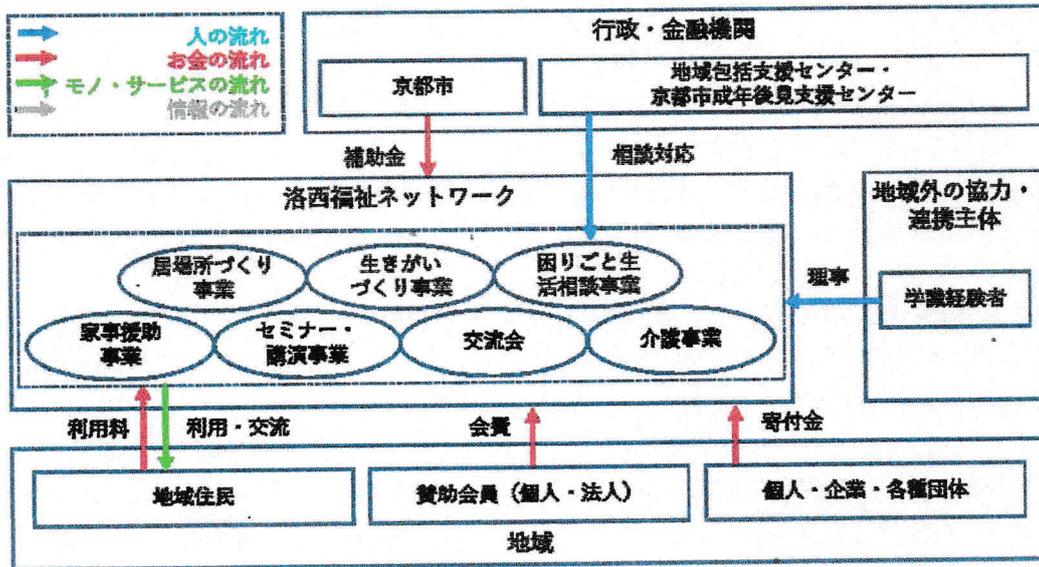
更には、現在中心になって活動している方々の後継者を見つけていく必要があることも現状の課題になっている。

(7) 取組の評価

住民主体で生活支援拠点を立ち上げ、多様な取組を行いながら運営を継続している。事業費の不足を会費等で賄っている点についても、会員参加で運営していく一つの形として考えることができる。事業収入・会費・行政の補助金などをバランス良く収入としていくことが重要である。

取組の内容については、居場所づくりや住民の互助などが中心であり、今後より高齢化が進展する地域においては不可欠なものである。後継者の確保が課題とされているが、世代間交流の活動や学生との交流を深めることにより、若い世代からも活動の担い手を発掘するとともに、取組の必要性を住民に改めて理解してもらうことが重要だと考えられる。

図 6-4 取組の全体イメージ
(洛西福祉ネットワークホームページを基に作成)



(2021年2月取材、10月に補足)

【参考資料】

- 1) NPO法人 洛西福祉ネットワーク「わくわく通信 14号 (2020.10)」
http://rakusai-fukuset.net.life.coocan.jp/20201026_tuusinn14.pdf
- 2) 内閣府 NPO 法人ポータルサイト
<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/112000833>

発行 国土交通省国土交通政策研究所
〒160-0004
東京都新宿区四谷1-6-1
四谷タワー15階
TEL 03-5369-6002(代表)
FAX 03-5369-6009
e-mail hqt-inquiry-pri@gxb.mlit.go
<http://www.mlit.go.jp/pri/>